

平成28年2月13日(土)

老球の細道211

## 福島県高校バスケットボールの快挙！

会津バスケットボール協会 室井 富仁

日本銀行がマイナス金利政策を打ち出したり、北朝鮮がミサイルを発射したり、毎日ビックニュースが飛び込んでくる。福島県バスケットボール界においてもビックニュースが飛び込んできた。この場面に直に遭遇できなかつたのはとても悔やまれる。

2月6日(土)7日(日)と宮城県利府体育館で開催された東北高校新人大会において、福島県代表の男子福島南高校が初優勝、女子の福島西高校が昨年に引き続き2年連続優勝した。福島県としては(おそらく)史上初のアベック優勝か。他県の強豪校といわれるチームは県外から優秀選手を集めているが、福島県はほとんどが地産地消。凄いことである。

この二つの学校を率いるのが福島南水野慎也先生、福島西は渡邊拓也先生で、両先生とも福島県高校界の名将である。どこのチームを指導しても素晴らしい実績を残す。水野先生は、プレイヤーとしても全国トップレベルで活躍し、コーチにおいては前任の福島商業でもインターハイ、ウインターカップ出場を果たしている。また福島県少年女子のヘッドコーチとしても過去に東北大会優勝を果たす輝かしい実績を持つ。

渡邊拓也先生は、過去に福島教員チームのヘッドコーチとして全国優勝のキャリアを持ち、長い間福島県少年女子選抜チームのヘッドコーチも務めた実績を持つ。福島西高校に転勤しては先のウインターカップにおいて、あわやベスト8かというすばらしい成果を残してくれた。また、バスケットボールの研修で海外にも数回足を運んでいる勉強家である。

この二人の名将に共通するのは、常に全国のトップレベルに視野を向け、全国の強豪チームに臆することなく積極的に挑み続ける姿勢である。また、コートにおける日々の指導においては選手や周囲に妥協することなく、自分の信ずることにまっすぐ突き進む情熱を携える。二人の先生と話をさせていただいた経験からくる私の率直な感想である。

優れた指導者はどこのチームに行っても素晴らしい卓越したチームを創る。平凡な指導者と何が違うのか。私は常に次の10の要素を持つことを考えている。

- ①ありのままの姿で選手と接する：かっこついたり、偉ぶったりしない。仮面ははがれる。
- ②前もってよく考える：成功は用意周到な準備で成される。練習計画にそれがあらわれる。
- ③選手1人ひとりに関心を持つ：ユニフォームを脱いだ姿、将来の姿にも感心を持つ。
- ④尊敬される。人気と尊敬は違う：尊敬されるコーチは選手を尊敬し、思いやる。
- ⑤現有メンバーで最高の力を出す工夫をする：人材不足の愚痴はグッチのバックの中に。
- ⑥やる気を起こさせる：「私は無理！」のハードルを越えさせる。
- ⑦平凡を嫌う：ファースト(最初に)、ベスト(最高を)、デイファレンス(他と違う)。
- ⑧プレイヤーを正しく評価する：選手の「これから」「光るもの」「ひたむき」に注目。
- ⑨マネジメント能力：チームに規律の文化を確立。綿密な練習計画と環境整備。
- ⑩信念を貫く勇気：信念をまげたらコーチは終わり。

厳寒の冬の後にうらかな春が訪れる。平成29年に福島県で全国インターハイが開催される。昭和47年の福島インターハイではわが後輩の会津高校が参加したが、男女とも1,2回戦で敗退した。今回は福島のバスケットボール界に桜が満開の春がやってくるのではないだろうか。会津のバスケットボール界にはいつ？